

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成18年度)をご参照下さい。

作成日：平成18年10月15日

担当公館名：在セネガル日本国大使館	
国名：セネガル	案件名：小学校教室建設計画
E/N署名日：1998年5月25日	供与限度額：25.72億円
先方実施機関：教育省	完工日：2000年12月15日
他の関連協力：	
1. 案件の目的	<p>(1) セネガルでは第7次経済社会開発計画(85-88年)において2000年までに就学率を100%にするという目標を掲げ、右計画達成に向けドナー諸国や国際機関に対し協力を求めたにもかかわらず、87年から96年までの10年間に就学率が3%(56.4%(87年)→59.7%(96年))しか向上しなかった。その背景は、世銀による構造調整計画のため政府は支出を削減せざるを得ず、教員採用、教室建設等の初等教育拡充に必要な投資を十分に行えなかったことが挙げられる。</p> <p>(2) 上記の事態を受け、政府は93年に教育開発を目的とした「人的資源開発計画2」及び世銀の融資を前提とした「教育計画V」を策定した。後者では初等教育の拡充に力点を置き、中長期的に就学率100%を達成するため、まず98年に65%の就学率を達成すること、そのためには全国で3500教室を建設することが必要であると試算した。また、同政府が教育計画Vと並行して策定した「セネガルのすべての人々のための基礎教育に関する一般政策と行動計画(95-04年)」では98年の就学率65%に加え、2000年は75%と設定し、同目標達成のためには毎年平均1700教室の建設が必要とした。</p> <p>(3) 我が国は91年に第1次小学校建設計画、94年に第2次小学校建設計画としてそれぞれ186教室及び512教室を建設してきており、教育分野において積極的に支援を行ってきており、本件第3次小学校建設計画においても400教室を建設し、セネガル政府の上記取り組みを積極的に支援することとした。</p>
2. 案件の内容	ダカール州とティエス州の106校の400教室(立替、増築、新設)及び校長室兼倉庫51室の建設。生徒用机・椅子(2人用)を各教室に30組、教員用机と椅子を各教室及び校長室兼倉庫に1組、戸棚を各教室に1つ設置。学校施設メンテナンスマニュアルを各学校と学校運営委員会にそれぞれ1冊ずつ配布。
3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価A)</p> <p>詳細評価：</p> <p>(1) 我が国はセネガルにおける初等教育の拡充を目的として教育分野に重点的に協力を行ってきており、本件小学校教室建設計画の前に既に2次に亘り小学校教室を建設してきた。</p> <p>(2) セネガルでは上記1.のとおり、「教育計画V」と並行して策定された「セネガルのすべての人々のための基礎教育に関する一般政策と行動計画(95-04年)」では目標就学率を定め、そのために必要な教室数が明記されており、教</p>

	<p>育分野におけるセネガル政府の最優先課題に応える協力となっている。我が国及び他ドナーの協力や政府の積極的な取り組みもあり、96年に59%であった就学率は2005年には83%まで向上した。</p> <p>(3) 本計画では教室不足を解決することを主目的としているが、要請時点で既に就学率90%を達成していたダカール州では、老朽化した既存教室の建替えによる教育環境の改善に重点を置き、就学率が50%台であったティエス州においては、既存小学校の教室の増築と新設小学校の建設により就学機会の拡大を図ることに力点を置いており、地域のニーズに合わせた対応となっている。</p>
<p>4. 施設／機材の適切性・効率性</p>	<p>全般的評価：B+ (外部有識者による二次評価 A -)</p> <p>詳細評価：</p> <p>(1) 本計画における教室は十分な広さを有する(9.2m×7.2m)とともに明るさを確保するために上部にガラスブロックを設置している。また、夏場は30度以上となる暑さ対策として風通しを確保するため鋼製可動ガラリ窓を片側に3箇所用いている。今般ヒアリングを行った14校の校長からは我が国の教室に対する高い評価が示されており、特に十分な広さ、非常に明るいこと、及び夏場でも風通しがよく涼しいことに対する評価が述べられた。また、我が国の教室は他ドナーの教室と比較しても非常に丈夫であるとの評価も確立しており、視察したサイトにおいても建設から7年経っているにも関わらず、床や天井はほとんど問題がない状態であった。これには我が国の援助で建設した教室の質が高いということとともにセネガル側の維持管理が比較的適切に行われていたことが理由として挙げられる。また、事後点検(1年後の点検及び昨年度建設会社が自主的に見回り床のヒビ等を修理したこと)が行われたことについてもきわめて高い評価が示された。</p> <p>(2) 今般の視察の際先方より指摘のあった事項及び当方気付きの点は以下のとおり。</p> <p>(イ) 校長室兼倉庫</p> <p>本件プロジェクトでは、校長室を有していない学校には教室に併設する形で教室に転用可能なように教室とまったく同じ設計の校長室兼倉庫を設置した。各学校では生徒数の増加に伴い、本校長室を教室に転用し、別途校長室を父兄会費等にて建設しているところがほとんどであった。多くの校長室が転用されていたという事実は調査段階で生徒数の増加を見込んでいたため、それらの増加を吸収できたことを示している。</p> <p>(ロ) ドアの取っ手、箱錠、ドア止め</p> <p>ドアの取っ手、箱錠、ドア止めが破損しやすいという指摘が校長から多く示された。当地においては使用が荒い場合が多いため、より強度の高いものを使用する必要がある。</p> <p>(ハ) 戸棚</p> <p>教室内に設置されている戸棚(用具入れ)は枠組みと扉が木製であるが、当地では雨季である夏場が休暇にあたることもありシロアリが発生しやすく、いくつ</p>

	<p>かのサイトでは扉が使用不能な状態になっていた。他ドナーや政府等の建設した戸棚は鋼製であることがほとんどであり、我が国の教室も鋼製の扉を用いるべきであろう。また、同扉の鍵は各教室（1棟3教室あるとすると、3教室とも同一の鍵で開いてしまう）とも共通のものであるとの指摘があり、セキュリティの面から問題があろう。</p> <p>（二）鋼製可動ガラリ窓</p> <p>本件プロジェクトにおける鋼製可動ガラリ窓は通気性にすぐれているとの評価であり、おおむね良好な状態であったものの、海に近い1校においてはかなりさびついた状態であった。本件プロジェクトではサビ止め塗装を行う等サビ問題に取り組んでいるが、当地では教室完成後の維持管理としてサビ止め等はあまり行われないため、サビ止め対策につき更なる向上を図る必要がある。</p> <p>（ホ）机・椅子</p> <p>机については上板を止めるネジが取れやすいという問題があり、設計上の問題としてビスを用いるか、裏側から止め具を当てる必要がある。</p> <p>（ヘ）電気</p> <p>電気については先方政府負担事項であるため設置されていないが、当地では生徒数の増加から2部制を取る学校が多く、遅い場合は19時頃まで授業が行われるため電気が必要となる。父兄会費等により自ら設置している学校もあるが、壁が堅いこともあり電線は壁に這わせてある状態である。安全面、耐久性を考慮すると建設段階から壁内部に電線を入れ込んでおくことも考慮に値する。</p>
<p>5. 効果の発現状況（有効性）</p>	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価A）</p> <p>詳細評価：</p> <p>基本設計調査時点では裨益効果として生徒38200人が適切な環境で学習する機会を得られるとしていたが、現在以下のような効果が見られており、本件は十分な効果を発現していると評価できる。</p> <p>（1）我が国及び他ドナー、政府の取り組みの結果、96年には59%であった就学率は2005年には83%まで向上した。</p> <p>（2）新規教室の建設のみならず、老朽化した既存教室の建替えによる教育環境の改善の結果成績の向上が見られ、留年が減少し、中途退学者が減少する等の効果が見られた。</p> <p>（3）授業がない時等教室が空いた時間に識字教育や中等教育の補習等が行われており、成人教育等を行う場所も提供している。</p> <p>（4）老朽化の激しい教室を建替えることにより維持管理費を節減できた。</p>
<p>6. インパクト（上位目標への影響等）</p>	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価A-）</p> <p>詳細評価：</p> <p>（1）セネガル政府は最上位計画である経済社会開発計画において初等教育の充実が同国の経済発展にとり決定的な要素であると位置づけており、教育セクタープログラム（「人的資源開発計画」及び「教育計画V」、「セネガルのすべての人々のための基礎教育に関する一般政策と行動計画」）は右を受け98年までに就学</p>

	<p>率を65%まで向上させ、2000年に75%という目標を掲げ、そのためには年間1700教室の建設が必要とした。また、都市部と農村部の就学率の不均衡を減少させるという目標も掲げている。</p> <p>(2) 教室の新規建設及び建替えにより教育環境が改善されたことにより、就学率は本プロジェクトが完工した2000年には68%、2005年には83%まで向上している。就学率が50%台と低かったティエス州において積極的に教室を建設しており、同州における就学率の向上させることで都市部と農村部の就学率の不均衡是正にも寄与している。</p>
<p>7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)</p>	<p>全般的評価：A- (外部有識者による二次評価:A-)</p> <p>詳細評価：</p> <p>(1) 各学校に学校運営委員会が設立されており、維持管理を行っている。掃除を定期的に行う等基本的に適切な維持管理が行われている。他方、各学校により修理等の営繕にどの程度取り組んでいるかには差異があり、壊れた机・椅子は放置するのではなく、修理することで再利用を図るべきである等の認識が弱い学校がある。</p> <p>(2) 現在、各学校の1教室あたり生徒数には50-100人と大きな差がある。1教室あたりの生徒数については60人程度を目安とされているが、大幅に上回っている学校が多いのが現状であり、人口予測等を考慮した教育省によるよりの確なスクールマッピングが求められる。</p>
(1) 対応方針	<p>(イ) 窓のサビやシロアリも積極的な対策を行えばある程度防止できるものであり、教育省が維持管理に関し、各学校の積極的な取り組みを促すようにさらに指導する。また、ドアや机等は丁寧に扱うべきであるとの指導を浸透させる。</p> <p>(ロ) 政府は周辺地域の人口動態及び予測を正確に行い、学校及び教室の建設計画を立てるというスクールマッピングの能力を向上させる必要がある。</p>
(2) 対応方針理由	<p>教育省のみならず各学校レベルで教室は自分たちのものであるという意識を持ち、オーナーシップを持って維持管理に取り組むことが教室の長期利用のためには重要であるため。また、教育省を含めた行政能力の向上が長期的な計画の立案に取り極めて重要であるため。</p>
<p>8. 広報効果（ビジビリティー）</p>	<p>全般的評価：A- (外部有識者による二次評価:B+)</p> <p>詳細評価：</p> <p>(1) 本件プロジェクトの主要対象である地方の村においては、学校関係者のみならず住民全員が同村の学校については日本が協力を行っているということを承知しており、非常に高い広報効果を示している。</p> <p>(2) 他方、いくつかの都市部の学校では、住民全体に一つのプロジェクトが知られるということは少ないため、学校関係者以外は我が国の協力につき認識されていない場合もある。我が国建設の教室には当然我が国の協力を示す銘盤が設置されているが、学校全体は政府や住民の建設した塀が困っていることが多く、内部に入って教室に近寄らない限りは日本の協力であるとわかりにくい。したがって、今後は我が国の教室がある学校では塀及び門に我が国協力を示す表示を行う</p>

	<p>ことも検討する必要がある。また、学校は大通りからはずれたところにある場合が多いので、大通り沿いに近くにある学校については日本が建設した旨の看板を設置することを一案である。</p>
<p>9. 被援助国による評価 (外交的効果についても、本欄に記述する)</p>	<p>(1) 我が国の無償資金協力で建設した教室は非常に質が高いとの評判は学校関係者、現地住民のみならず政府関係者も共有しているものである。我が国は本件第3次小学校建設後も小学校建設への協力を続け、現在第4次まで了しており、教育分野とりわけ就学率向上のための小学校建設を積極的に支援してきており、セネガル政府の我が国に対する期待も大きく、継続して新規小学校建設計画への協力要請を受領している。</p> <p>(2) 小学校建設による就学率の向上は国家計画及び教育セクタープログラムにおいても最優先課題とされており、右目的に資する我が国の協力に対してセネガル政府よりは高い評価が示されている。</p> <p>(3) 一方、質が高く、丈夫で長持ちするという特徴を考慮すると妥当であろうが、我が国の無償資金協力で建設した教室はコストが高いとの指摘がある。</p>
<p>10. 提言・教訓</p>	<p>(1) 我が国は教育をセネガルにおける優先協力分野と位置付け小学校建設を積極的に支援してきている。今後も同分野における協力を積極的に行っていくことは、2015年に初等教育の就学率を100%にするというMDGsの達成に向けた努力を支援することにつながり、我が国の協力の成果を積極的にアピールできるものとなる。前述のように現在就学率は83%まで向上しており、国家予算(人件費等経常経費)の40%を教育に当てているセネガル政府の積極的な取り組みもあり、初等教育に関する取り組みは現在かなりの成果を見せている。</p> <p>(2) 94年の第2次小学校建設計画と本件第3次小学校建設計画を比較した場合、サビに強い窓を使用している等改善点はあるものの、両計画が併設されている学校からは机・椅子の質が前者の方がよかった、壁の塗りについても前者は天井までやっているのに、後者は途中までしかないという指摘があった。コスト削減という要請はあるが、我が国協力の質の高さという評価に傷をつけないようにする必要がある。その観点からは特に、現在、コスト削減の観点から当地のコンサルタント及び建設会社を用いたコミュニティ開発支援無償による次期小学校建設計画も検討されており、コスト削減及び現地のノウハウの利用というセネガル政府の希望に沿うものではあるが、良質のコンクリート、鉄筋使用による丈夫さ、大きなガラスブロック使用による明るさといった質の維持には最大限の注意を払わなければならない。</p>
<p>11. その他</p>	<p>各学校を視察した際の写真を別添する。</p>



Boukhou Bentegne 小学校風景



明るい教室内



我が国援助の銘板



事後点検で修理した床のヒビ



壊れやすい錠前



シロアリの発生した用具入れ